



ランドスケープ 環境計画とランドスケープデザイン アーキテクチャ

ジョン・オームスピー・サイモンズ / バリー・W. スターク 著
都田 徹 & Team 9 訳
JOHN ORMSBEE SIMONDS BARRY W. STARKE

今日のランドスケープアーキテクツのための手引きの古典

本書「ランドスケープアーキテクチャ」は何世代にもわたり、ランドスケープアーキテクチャーの理論と実践における卓越したアイデアの源であり、情報源であり続けている。新しく迎えた共著者、バリー・W. スタークによって400点を超えるフルカラー写真と、新編でダイナミックな解説やイラストレーションが加えられたことで、完全なる改訂を遂げ、新たに生まれ変わった。本書は専門的な以下の項目を網羅している。

- ランドスケープと環境計画の基礎
- 敷地選定と、敷地分析のガイドライン
- 敷地プランニング(計画)/開発のプロセス
- 自然システム
- 眺めと視界のデザイン法
- 歩行者と車の動線
- 成長管理と郊外へのスプロールに対する解決法
- 建築とランドスケープ、庭園の統合
- ウォール、舗装、デッキ、サイン、ライティング、プール、噴水などの屋外設備の現場工事に対する有用なアイデア
- 近隣、コミュニティのプランニング
- 郊外の住宅地、町、都市の再生
- 歴史の保存
- 資源の保全
- 土地の回復と再利用
- 屋外活動とレクリエーション

これらの問題に対峙した数多くのエキサイティングな挑戦や事例が生まれたことにより、共著者であるスタークはトム・ラム、D.A. ホークナー、チャールズ・メイヤー、トム・フォックスなどによる写真を本書に盛り込むことができた。新たな美しい写真によって理解はより深まり、読者にさらなるひらめきを与えるだろう。

第4版はこれまでの版を礎に、さらに発展した一方で、その目的は初版から一貫している。それは、ランドスケープアーキテクチャーの分野に影響する環境問題に重点を置いて、ランドスケープアーキテクチャーの理論と実践に対する、最も完全に正確な分析を読者に示すことである。

単行本 (翻訳) 全巻

新版 ランドスケープ・アーキテクチャ

原書: LANDSCAPE ARCHITECTURE (Fourth Edition, 2006, McGraw-Hill)
原著者: ジョン・オームスピー・サイモンズ+バリー・W. スターク

主旨:

本書は当社既刊書「ランドスケープ・アーキテクチャ」(ジョン・オームスピー・サイモンズ著、久保貞、他訳、1967年初版1000部1984年累計6200部)の第4版(2006年刊)である。初版に比べ4版はオールカラー写真となり、図版、項目も大幅に加えられている。内容は、単にランドスケープアーキテクツの仕事や、最新のランドスケープデザイン手法を解説したものではない、景観計画の過程のアウトラインを示すべく、「自然を理解すること」「自然現象の形や力、居住環境の影響」「気候に対する意識とそれに適応するデザインの意味」「敷地の選定と分析」「都市のコンテクストにおける、より効果的で快適な場所の創造」など事柄に沿って解説し、建築家、ランドスケープアーキテクツ、都市計画家などの実務者に向けた、デザインガイドラインとなることを目的としている。地域、庭園、都市といった広く景観デザインに関わるすべての人が、環境に対してより効果的で有効な認識を得られること、さらに景観デザインプロジェクト推進のための法則・原理を理解しやすいうように解説するものである。

目次

- | | | | |
|---------------|-------------|-----------------|---------------|
| はじめに | 1 人間のすまい | 2 気候 | 3 土 |
| 4 水 | 5 植生 | 6 ランドスケープの特徴 | 7 敷地開発 |
| 8 地形 | 9 敷地計画 | 10 ランドスケープの構築 | 11 敷地の大きさ |
| 12 サークキュレーション | 13 構造物 | 14 目に見えるランドスケープ | 15 住宅 |
| 16 地域計画 | 17 アーバンデザイン | 18 成長の管理 | 19 広域のランドスケープ |
| 20 計画された環境 | 21 展望 | | |

版型仕様 A4 変型上製カバー 416頁

著者について



● ジョン・オームスピー・サイモンズ

2006年5月没。ランドスケープアーキテクチャーとエンバイロメンタルプランニング(環境計画)における最も重要な人物の一人。その先見の明ある考えと、革新精神は世界的に知られている。彼の70年間にわたる作品とキャリアが、ランドスケープアーキテクチャーの職能が1900年代始めの個人の小さな集まりの時代から、アメリカ国内3万人にもおよぶ最も重要な土地利用、環境計画者たちの集まりにまで拡大した現在との間をつなぐ架け橋となった。サイモンズの本書「ランドスケープアーキテクチャー」を含む数多くの貢献が、今日の環境的責任のある計画やデザインにおける焦点の基礎づくりの一端を担った。アメリカランドスケープ協会(ASLA)の会長、特別会員であり、ASLAの最高位のASLAメダルを授与された。100年会長メダルを授与されたのはASLA史上彼一人である。大統領環境特別委員会委員、フロリダ州知事自然資源特別委員会委員、イギリス王立デザイン学院特別会員。



● バリー・W. スターク

30年以上の間、ランドスケープアーキテクチャーを牽引している。1967年、カリフォルニア大学バークレイ校環境デザイン学卒業、ランドスケープアーキテクチャーの学位を取得。バークレイ在学中、本書「ランドスケープアーキテクチャー」と出会い、のちのちまで彼のキャリアに強く影響をおよぼすこととなる。1974年、数々の受賞を誇るランドスケープアーキテクチャー・環境デザイン事務所Earth Design Associates, Inc.の共同創設者となり、今日まで代表を務めている。1988年、ヴァージニア大学建築学部の教員となり、プロフェッショナルプラクティス(実務業務)を教えた。1999年にASLA100年会長を勤め、ASLA100周年祝賀を取り仕切った。ASLA特別会員、アメリカ公認計画家協会会員、再生可能資源財団副会長を勤める。2003年、ランドスケープアーキテクチャーに対するその傑出した貢献によって、M.Meade Palmer Medalを授与された。

プロローグ

2004年12月12日の午後、電話がなった。それは、ジョン・サイモンズからだった。私の心に不安がよぎった。ジョンと私はこの2年間にわたり、ASLAの百周年記念準備のために熱心に話し合ってきたが、その頃のジョンはあまり体調が良くなかった。そのため、私はその電話がジョンの家族が彼の重病や死を伝えるためにしてきたのではないかと心配になったのだ。電話にでると、聞こえてきたジョン自身の声には安堵し、彼が言おうとしたことに、私の気持ちは不安から、高揚にかわった。

「バリー、私と一緒に『ランドスケープアーキテクチャ』の第4版を執筆してくれないか?」私は自分の耳を疑った。そして、別の思いがよぎった。1963年11月22日の出来事を思い出した。その時自分が何処にいて、なにをしていたかを覚えている人ならほとんどの人が、この日をジョン・F・ケネディが暗殺された日だと記憶しているだろう。その日、私はカリフォルニア大学バークレイ校の図書館でジョン・サイモンズの Landscape Architecture の初版にのりこんでいた。もちろん、ジョン・F・ケネディの暗殺は皆が衝撃を受ける出来事だったが、私個人にとってはその出来事が私の人生やキャリアにもたらした影響はジョン・サイモンズの本が私の将来や次世代のランドスケープアーキテクツにもたらした衝撃には全くかなわないものだった。

1961年にジョンが『ランドスケープアーキテクチャ』の初版を出版したのは、デジタル革命以前で、GISやCADのような近代的手法がプロフェッショナルプラクティスを促進する前のことだった。しかしながら、ジョンが『ランドスケープアーキテクチャ』の初版で、そして続版で示したことは、初版が出版された時と同様に現在でも役に立つ。ランドスケープアーキテクチャの計画やデザインの原理を文章やスケッチ、人の言葉を通して説明する彼の天才的資質は時代を超えたものであり、これまでもそうだったように、次世代をつくるうえで大いに役に立つことは疑いもない。

その後の数年間、私たちはアイデアを交換し合い、第4版作りに助んだ。ジョンは改訂版の原稿を書き上げ、私はその原稿をチェックし、ランドスケープアーキテクチャの作品や、関連のあるテーマで本書の内容を説明するための写真を集めた。ジョンは『ランドスケープアーキテクチャ』を執筆することがプロとして彼が成し遂げる最も重要なことであると考えていたし、いうまでもなく、私も共著者としてジョンと一緒に執筆できたことは大変な名譽なことであった。

そして、5月26日、わたしは12月12日に鳴った電話の不安が現実となってしまったことを告げる電話を受けた。秋が過ぎて、しばらく入院していたジョンは、家へもどり、家族や友人たちのそばでその生涯を閉じた。彼はすでに原稿を書き終えており、最終校訂を彼の妻、マージに託していた。「その後のことは周知のとおり」とマージがいたが通り、新たな活力と、20世紀の最も偉大なランドスケープアーキテクツの一人であるジョンの遺産への献身を持って、わたしはピッチを上げて執筆した。

バリー・W・スターク



持続可能な土地計画とランドスケープデザインを盛り込んでいる。

地球をデザインするひとのための本

評：進士五十八



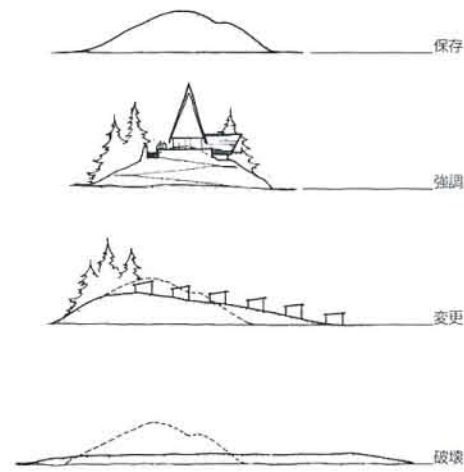
『ランドスケープアーキテクチャー—環境計画とランドスケープデザイン—』
ジョン・O.サイモンズ+バリー・W.スターク 著
都田 徹+Team9 訳
A4変形判上製420頁
鹿島出版会 本体19,000円+税

読者は、ランドスケープアーキテクチャーという専門分野を知らないかもしれない。

アーキテクチャーを造家学と訳したのに対しランドスケープアーキテクチャーは造園学と訳された。韓国では造景学、中国では風景園林学と訳されている。景観法(2004)もでき徐々に市民の関心も高まっている景観や風景の保全と創出を目指す技術学術であり芸術である。造園の文字の制約もあって庭園や公園、緑化植栽のイメージが強いが、本書のサブタイトルどおりで、土地自然を基調とする景観計画、敷地計画、造園設計を一貫して実践する専門的職能をランドスケープアーキテクトといっている。

本書の表紙はニューヨーク、セントラルパークの全景で飾られている。この公園の設計者F.L.オルムステッド(1822-1903)が、それまで3000年の歴史を積み重ねてきた国王や貴族のための造園技術を、市民社会のアメニティ技術へと昇華すべく、自らをランドスケープアーキテクト第1号と名のつたのである。それから100年を過ぎた1961年、本書の初版が刊行され、さらに50年近くを経て共著者スタークの手で大幅改訂の第4版(2006)と成る。

評者は学生時代、原著と鹿島研究所出版会の久保貞訳を目にした感激をいまも憶えている。それまで余りにも実的な造園書しか知らなかったのが、それとはまったくちがう広く深いランドスケープの哲学を感じたからである。かといって難解ではない。人間、気候、



丘の開発には上記4種類の方法がある

土地、水、植生、地形、敷地、スペース、眺め、動線、建物、地域、都市、環境などランドスケープの要素、構成、デザインのすべてにわたり、それをどのように考えればよいのか、それは何故か、どう扱えばよいか等々実に具体的にたくさんの基本と実際を教えてくれる。まちがいなくランドスケープアーキテクチャーのバイブルであると実感したのである。

第4版の本書は、スケッチこそサイモンズの懐かしいタッチが残るが、初版久保訳本が244頁であったのに4版都田訳本は399頁と大幅に追加されている。現在の学生諸君によくわかるように、質の高い世界中のランドスケープ作品が各章に適切に選ばれ、またコンピュータアプリケーションやエコロジー管理など現代的テーマについても詳解している。

著者J.O.サイモンズ(1913-2005)は、ミシガン州立大学で、さらにハーバード大学大学院でランドスケープアーキテクチャーを修め、後ASLA(アメリカ・ランドスケープ・アーキテクト協会の会長をもつとめた20世紀最高のランドスケープの権威で、すぐれたデザイナー、教育者でもあった。

サイモンズの言い方だと本書は“人間の飼いや方の本”であり、“地球という星により適合してくらすためのガイドブック”ということになる。「本来あるべき姿としての地球と、人間、建築、人間の活動、そして人々のコミュニティとの間に調和のとれた関係を築くこと」を、まさに地球社会のデザイナーを目指す若者に読んで欲しい最高の著書である。

これまでのデザイナーや建築家は、モノとスペースを完全に作る努力はおしななかつた。しかし、自然の大地や場所、そして水、緑、生き物の循環と共生への関心は決して十分であるとは言えない。2010年は国際生物多様性年、2011年は国際森林年。そろそろ地球のスケールで自然を意識したデザインにチャレンジして欲しい。

[しんじ・いそや | 日本学術会議環境学委員長、東京農業大学名誉教授、(財)水と緑の感星保全機構理事長]

BOOKS

ランドスケープアーキテクチャー
環境計画とランドスケープデザイン



ジョン・オームスピー・サイモンズ/バリー・W.スターク 著
都田 徹+Team9 訳 鹿島出版会 発行
19,950円(税込)

●目次 刊行にあたって / プロローグ / 序文 / 狩人と賢人 1 人々の棲む場所 人間
と動物 / 自然 / 自然科学 / 生態学の基本原理解 / 地球風景 2 気候 気候と反応
社会への痕跡 / 顧慮 / 地球温暖化 / 微気象学 3 土地 人間の影響 / 資源とし
ての土地 / 土地の授与 / 土地の権利 / 測量学 / 用途 4 水 資源としての水 / 自然
体系 / 管理 / 水に関連した敷地計画 5 植生 表土層 / 自然の中の植物 / 植物同
定 / 植物栽培 / 大園の始まり / 消えゆく緑 6 ランドスケープ特性 自然景観 / 改
良 / つくられた環境 / 工事 7 地形学 等高線による表現 / 測量 / 補足データ 8
サイトプランニング(敷地計画) プログラムの展開 / 敷地の選定 / 敷地分析 / 土地の
包括的なプランニング / コンセプト図 / コンピュータアプリケーション(コンピュータの
利用) 9 敷地開発 敷地と構造物の表現 / 敷地と構造物の計画の展開 / 敷地と建築
のまじり / 敷地の秩序 10 ランドスケープにおける植栽 目的 / プロセス / ガイドラ
イン / 発展 11 敷地のボリューム スペース / 地面 / 頭上面 / 垂直面 12 ランドスケ
ープの視覚的側面 眺め / ヴィスタ / 輪線 / シンメトリーなプラン / 非シンメトリー / 視
覚的景観資源の維持管理 13 動線 動き / シークエンス / 歩行者の動き / 自転車交通
/ 鉄道、飛行機、船での移動 / 人の輸送手段 14 建造物 共通の特徴 / 構成 / ラ
ンドスケープにおける建造物 / 明確な境界をもつオープンスペース 15 住居 住居と自然
の関係 / 人間の需要と生活環境 / 住宅の構成要素 16 地域計画 集団の責務 / 問
題点 / 可能性 / 計画された地域社会 / 新たな指針 17 アーバンデザイン 都市景観
都市のダイアグラム / どこにでもある自動車 / 人間のための場所 / 都市の緑、都市
の水辺 / 新たな都会 18 成長管理 ガイドラインプラン / 都市分散とアーバンズプロ
ール / 修復 19 地域スケールのランドスケープ 相互関係 / 地域形 / オープン
スペースの骨組み / 必要不可欠なもの / 地域計画 / 行政による管理 20 計画された環境
保護管理の信託 / 環境に関する問題点 21 展望 否定と探求 / 発見(あきらまにな
ったこと) / 洞察(突然の理解) / 発展と変革 / 計画された体験 ●追想 プロジェクト
ジット / 引用文典(ページ) / 参考図書 / 索引 / 著者について / 訳者あとがき

とにかく魅力的な本である。1961年の初版を学生時代に読み、今、35年後に4版を読む機会を得る。

ジョン・オームスピー・サイモンズの人生をかけて改訂されたランドスケープ・アーキテクチャー4版の内容は、深く、広く、そして崇高である。内容は彼のインスピレーションと哲学を縦糸に、そして豊かな実務経験に裏打ちされた実学を横糸に編まれている。

それだけに翻訳の作業は並大抵ではなかったと思われるが、都田徹氏とTeam9は、成し遂げてくれた。

この本は、どのページから読み始めても良いが、1章から21章にわたる構成は、ランドスケープ・アーキテクチャーの領域におけるスケール、多様性、システムなどを、絶妙に分かりやすく順序立てて記述されている。

なかでも、13章 動線の章は秀逸で、サイモンズの直感と芸術性、論理性が見事に表現されていて読む者をワクワクさせる。そのう
え手描きの記号化された比喩表現が素晴らしい。

しく、分かりやすい。

内容が、いかに興味深いかは、章立ての目次を見ると一目瞭然なので、記載紹介する。内容もさることながら、この本の文章には、心をとらえて離さないものがある。

たとえば、P375「<形>はあらかじめ考えられた<形>からの経験より、むしろ計画された経験から<形>をなすものだ……。生きて、脈動し、イキイキとした経験が、もし調和した関係の構図として認知されれば、それ自身<形>をつくりあげるものだ。」

静的な文字の群が、読み進むことにより、表現を通して動的な感覚を引き起こし、イマジネーションを刺激する。学生時代の私には、この表現は理解できない。35年後の私の実務経験は、この文章の実感を私に理解させてくれている。

思えば、久保貞研究室卒業後の大阪での7年間の設計事務所経験、シンガポール政府開発省での計画開発部長としてのガーデンシティ計画建設からCity in The

Gardenへの展開とGardens By The Bayプロジェクトへの参加。北京清華大学での客員教授任命と2010年第七届中国国際庭園園芸博覧会の総計画設計士や中国各地での都市計画レベルでの街づくりへのプロジェクト参加。これらの役割や業務をこなせてこられたのは、ひとえにLandscape Architectureの第一版との若い時期での出会いが、ゆるぎないLandscapeの礎を私に与えてくれたからに他ならない。

35年後の今、4版を読み返すと、最初の頁にさりげなく紹介される“狩人と賢人”の逸話の中に、サイモンズの自然におもはへて、ランドスケープ・アーキテクチャーを成すという明確な理念が示されており、この後に延々と続く頁の内容が、そのエッセンスであるということが、あらためて確認される。

この本自体が、サイモンズという巨人のランドスケープであることに、気付く。

一読ならず、何度も再読をお勧めする。
書評=福田純一(前WU代表、北京清華大学客員教授)